CO特別立法制定に総力を！

家庭の民主化を基盤に組織体制を固める

第一三回主婦会定期総会

三池主婦会、一九六六年度定期総会は、五月一五日、午前一〇時から労働会館で開かれた。総会では、六五年度経過報告と決算報告を承認し、昨年度の反省の上に立った組織強化と反合理化・反戦・平和のたたかう方針を決定した。

昨年度は、内部体制を固めることに重点をおいて活動をすすめられてきたが、その不十分さを補いながら、現在の独占資本の体制的合理化に対決できる地域組織をより一層強化することが意志統一された。

そのためにはまず家族会議を積極的にすすめ家族相互の理解を深め、その基盤に立った諸会議を開き活動をすすめる。とくに今期はCO特別立法制定の重要なたたかいにとり組み、組織内外に交流を深め、積極的に拡げる。

また、学習活動を活発化し、毎月実施してたたかいへの理解を深める。そして、地域住民としての要求や、反戦・平和のたたかいを組織化してゆく。そのためには、まず主婦自身が権利意識に目覚め内職先でも婦人労働者としての意識をもって交流を行なうべきである。

以上の今年度の方針が万場拍手のうちに決定された。

新役員きまる

会長に久保さん

本部役員

会　長　久保　時江（三川）
事務局長　島　フミエ（港務）
組織対策部長　森川久美子（四山）
生活対策部長　川野ヨシ子（本所）
会　計　谷本シズエ（宮浦）
監　査　嘉悦スミ子（宮浦）
〃　西田　洋子（四山）
〃　佐藤　スエ（三川）
〃　平田チサ子（本所）
〃　林　安子（港務）
支部長　古沢富美子

宮浦支部

支部長　中島　静子
組織対策部長　西田　豊
生活対策部長　田中　静枝

四山支部

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話③3033番 ③3034番
編集兼発行人　山下　開

封建社会の没落から生れた近代ブルジョア社会は、階級対立を廃止しなかった。この社会はただ、新しい階級を、圧制の新しい条件を、斗争の新しい形態を、旧いものとおきかえたにすぎない。

「共産党宣言」

主張

行動方針の討議に当り

一年間の運動の中心をどこにおいたか

私たちは昨年度の定期総会に於いて「長期抵抗路線」の確認とともに、第二次行動方針「いわゆる反撃に転ずる条件」を決定し、主体性の確立のため全力をつくしてたたかってきた。

資本主義の競争がますますはげしくなり、国際間の競争にうちかつためには独占資本と国家権力が一体となって、多面にわたって合理化攻撃をますますはげしく加えていることを分析し、攻撃がはげしければ逆に労働者の抵抗を強める条件を作り出すことになり「合理化は合理化を呼び、合理化は労働者の抵抗強める」という原則を私たちは資本主義の宿命であると確信し、展望を正しく理解し階級全体の力量をどう高めるかが、私たちに与えられた歴史的使命であると思う。このことを正しく認識し、指導部の「集団指導体制」の確立と、五人組を基礎とした「大衆路線」の確立のため全力を集中してきた。

どのように斗ってきたか

私たちはなんといっても、現在おかれている立場（現状）をどのように正しくとらえるかということについての大衆討議をくりかえしくりかえし行ないながら、生産点に於ける多様な合理化攻撃の一つ一つを、労働者階級という立場に立って判断できるような訓練と話し合いの中からの創意性と自発性に基づく行動を組織しねばり強い抵抗を組織してきた。

その結果、全体的には抵抗の質は強化され、活動家の層も厚くなり、分会によっては独自の指導能力を発揮できる段階まで到達したところもある。しかし全般的にはまだまだ不十分であったことも反省しなければならない。

また階級全体の力量をどう高めるかということを正しく認識するならば、当然の結果として「第二組合・組夫対策」についても真剣に取り組まなければならないはずである。にもかかわらず、かならずしも十分でなかった。なぜならば、現状を正しく認識し、大衆路線が進んでいるところほど「第二組合対策」も進んでいることが実証されている。

さらに地域住民との斗いが、職場に重点を置き過ぎて軽視されたきらいがある。この点もあわせて反省しなければならない。

今後どのように斗って行くか

私たちは前年度の「第二次行動方針」は正しい方針であることを再確認し、本年度もこれを踏襲し、現状にあった本年度の特徴を補足し、これを深める立場をとり一年間の斗いを反省し、本年こそ第二次行動方針の定着をはかりたい。

そのためには

①本年も徹底した「現状認識」についての意志統一をはかる。

②集団指導体制（執行部、分会三役、組長）の確立をはかる。

③五人組を基盤とした大衆路線の徹底をはかる。

すくなくとも分会三役が中心となり組会議が独自の機能を発揮するまでに高めたい。そのため学習活動、各段階における交流定期的な検証活動の実施をしたい。

④第二組合・組夫対策などの取り組みを一段と強化する。

⑤全階級的な力量を高めるために地域斗争を重視し、近く予想される総選挙と来春行なわれる統一地方選挙の取り組みと基本的な地域斗争のあり方について討議をおこす。

どの点に討議の中心をおくか

まず現状認識はどの程度できているか。自からの反省と周囲の実態はどうか、ということが先決である。そして、三役の指導性なり運営はどうか、五人組会議はどのように開かれ、討論されたかなど一年間の総括をし、前進した部分の評価と、不十分な点についての反省を具体的に明らかにし、どのようにして今後取り組むかなど、具体的な検討こそ次への前進の第一歩である。

就任に当って

会長　久保　時江

炭婦協一二年のいろいろな思い出を心に残しながら、四一年度の活動をしっかり守って行く決意で今期も会長をさせていただくことに、誇りと自信をもってがんばりたいと思います

私たちの生活を維持していくのは、夫の賃金であるのに、毎年毎年の賃上げ斗争の困難さ、そして今後の石炭政策のあり方を考えて行くと、これからの主婦会活動がどんなに大切なものであるかを感じずにはおれません。低賃金、労働強化、人命無視物価高など、資本の合理化攻撃に対して、夫たちは職場、地域で、生命と生活を守るため斗っています。

私たちをとりまく情勢はきびしく、決して生やさしいものではありません。私たちの運動は、片手に内職、家庭の主婦、役員という多忙な生活環境の中で、多くの問題をかかえながら、婦人の権利と子どもの幸せを願い、夫の生命を守るため、苦難な道を今日まで歩みつづけて参りました。

なお今期は、三井のあくどい合理化攻撃の結果ひき起された三川大爆発から三年目を迎えて、遺族・被災者の要求と、CO立法化を斗いとる重大な年でもあります。今後、政府・石炭資本一体となってかけてくるより一層の合理化攻撃に対して、夫の生命を守るためそして私たちの生活を守るため、主婦会も全力をあげて斗わねばなりません。

役員・会員一体となって、ともにがんばりましょう。

役員一同に対しまして昨年にましてはげまし、ご協力くださいますよう、よろしくお願いします。

四一年度 青婦部新役員

青婦部は機関構成の結果、次の通り決定し、五月二一日から発足しました。

本部

青婦部長　蒲池　俊洋（本所）
青婦副部長　平田　勝国（宮浦）
書記長　蒲池　哲夫（四山）
財政部長　江口　春雄（港務）
組織部長　織田　喬企（三川）
教宣部長　石田　勝一（宮浦）
文体部長　山田　耕作（三川）

宮浦支部

支部長　江上　政弘
副支部長　田中　賢
副支部長　国崎千鶴子
組織部長　井上　睦美
教宣部長　小山　一弘
文体部長　津波古文男
監事　藤枝　忠博

四山支部

支部長　渕之上勝見
副支部長　伊東　猛
副支部長　内田　民子
組織部長　立山　義人
教宣部長　藤田　嘉広
文体部長　森　のぼる
財政部長　酒本　忠義

三川支部

支部長　大阪間貞信
副支部長　中原　一
副支部長　林田ハツエ
組織部長　塚本　一
教宣部長　ます田清次
文体部長　野沢　彰
財政部長　芳川　勝
監事　杉野　伸吾

本所支部

支部長　伊藤　勇
副支部長　中島　穂子
組織部長　松岡　大喜
教宣部長　山本　秀雄
文体部長　新本　通敬
財政部長　原　美代子
監事　中山　輝男

港務支部

支部長　荒木　敬介
副支部長　酒見　弘行
組織部長　江口　忠信
教宣部長　森　光広
文体部長　酒見　弘行
財政部長　尾田　修一
監事　松島　邦子
組織対策部長　菊川五百子
生活対策部長　今村ツギエ

三川支部

支部長　厚地　幸子
組織対策部長　北村チサ子
生活対策部長　栃原ツモリ
CO・遺族対策部長　室野井スエノ

本所支部

支部長　蒲原フジエ
組織対策部長　山崎アサエ
生活対策部長　墨田美代子

港務支部

支部長　大石千恵子
組織対策部長　上田八重野
生活対策部長　酒井　妙子

三作支部

執行員　上形富士子